

第3学年3組 国語科学習指導案

指導者 教諭 平田 裕子
場 所 3年3組教室

- 1 単元名 「へんしんまきもの」を作って食べ物のひみつを知らせよう
～へんしん名人の食品をさがそう～
「すがたをかえる大豆」(光村図書3年下) 他 食べ物に関する図書

2 単元を通して位置付ける言語活動とその特徴

(1) 付けたい力と単元を通して位置付ける言語活動

本単元では、筆者の伝えたいことを理解し、文章表現の工夫に着目しながら段落の中心になる文をとらえ、段落相互の関係などに注意して内容を理解する力を付けることをねらっている。

単元を通して位置付ける言語活動としては、自分が選んだ身近にある食べ物のひみつについて本単元で学習する表現の工夫を生かしながら「へんしんまきもの」で紹介する活動を設定する。

「へんしんまきもの」は、「食品名」、「話題提示」、「食品の『くふう』の紹介」、「食品の写真・絵」、「相手に分かりやすく伝わるように表現の工夫をしたところ」で構成する。広げた時に学習した内容が全体的に見えるようなレイアウトになっている。また、第三次で、伝えたい相手や友達から感想を書いた付箋を貼ることができるようにしている。

(2) 言語活動がもつ特徴

児童が作る「へんしんまきもの」は、自分が選んだ身近にある食べ物のひみつについて、どのような表現の工夫をしたら相手にひみつを分かりやすく伝えられるかを考えながら書き表していくことを目指している。文章の組み立てや事例の順序、言葉の使い方や写真の使い方などの表現の工夫を基に、選んだ食材が同じでも異なっても友達と交流することができる。また、自分にとって必要な情報を様々な本、図鑑や資料から収集する必要感が生まれ、読書の範囲を広げられる活動になっている。

(3) 単元の目標との結び付き

言語活動ツール「へんしんまきもの」のモデル

感想
伝えたい相手や友達から感想を書いてもらう。

話題提示
これから説明する話題を大まかに示している。 【読(1)イ】

食品の「くふう」の紹介
食品のひみつを様々な本や文章から選び、「くふう」のまとめりごとに紹介している。 【読(1)エ カ】

表現の工夫をしたところ
分かりやすく伝えるための自分なりの工夫をまとめている。 【読(1)イ】

感想の付箋
伝えたい相手や友達から感想を書いてもらう。

3 単元について

(1) 単元の設定

本単元は、小学校学習指導要領「C読むこと」領域の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」を主なねらいとしている。

本単元では、主教材として「すがたをかえる大豆」を取り扱う。本教材は、身近な大豆やその加工品について書かれた説明的文章である。食品を保存するために昔の人が考えた「工夫」のすばらしさについて説明するために、筆者は伝えたいことに合う事例の順番を考えており、児童にとって興味深く読み進められる内容である。その内容をより分かりやすく伝えるために、写真を使うなどの工夫もみられる。本単元の学習をしていく中で、それらの工夫に気づき、自分が作る「へんしんまきもの」で活用することができると考える。

さらに、関連図書として、いろいろな食品に関する本や図鑑を用意することで、大豆や大豆以外の食品の工夫について知識を深めたり、筆者の説明の工夫について理解を深めたりできると考える。

(2) 指導内容の系統について

3年6月
まとまりを考えて読み、かんそうを話そう
「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」

〈本単元〉11月
「へんしんまきもの」を作って食べ物
のひみつを知らせよう
～へんしん名人の食品をさがそう～
「すがたをかえる大豆」

3年1月
考えの進め方をとらえて、科学読み物をしよう
かいしよう
「ありの行列」

(3) 児童の実態

本学級の児童は34名。（特別支援学級在籍の児童1名を含む。）

① 同系統の前単元学習から

前単元の「こまを楽しむ」において、文の構成「初め」「中」「終わり」について学んでいる。「問い」と「答え」に注目してこまの種類やそれぞれのこまの楽しみ方について調べ、「〇〇事典」を作り、遊びの楽しさを八千把小のみんなに知らせる活動をしている。

項 目	A及びBに達している人数
ア 段落番号を付けることができる。	34人
イ 文章を「初め」「中」「終わり」に分けることができる。	29人
ウ 「こまで楽しむ」の中からこまの種類を見付けることができる。	34人
エ 「楽しむ」というキーワードから、それぞれのこまの楽しみを見付けることができる。	30人

- ・ アとイから、段落番号を付けることはできているが、「初め」「中」「終わり」の特に初めの部分を見付けることができない児童がいる。文の組み立てについて考えるときには、事例などをきちんと確かめて「中」の部分を見付け、分けることが必要である。
- ・ ウとエから、こまの名前を見付けたり、「楽しむ」というキーワードからそれぞれのこまの楽しみを見付けたりすることはできている。
- ・ 前単元では、こまやそれぞれに選んだ遊びについて楽しみ方と合わせて紹介する遊びの「事典」を作っているが、紹介する順番などに気を付けている児童は数名であった。

② 平成28年度7月の実態アンケート結果と考察

質 問		とても	まあまあ
ア 国語の学習は楽しいですか。		19人	12人
イ 授業の中で、友達と話し合うのは楽しいと思いますか。		16人	11人
ウ 読書をよくしていますか。		13人	19人
エ 学習を振り返って、どんな感想をもちましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ おうちの人から感想をもらったのがうれしかった。 ・ 事典を作れたことがうれしかった。 ・ 自分が書いたことが放送で言えてうれしかった。 ・ 世界にたった一つの事典を作れてうれしかった。 ・ 事典を作って自分の考えを伝えるところが心に残った。 		

- ・ アとウから国語の授業や読書を楽しんで活動している児童が多いことが分かる。
- ・ イから友達との話し合いがうまくいかず楽しいと感じていない児童がおり、話し合いの形式を示し、何をするか明確にして話し合いをする必要がある。
- ・ エから相手意識や目的意識をもって、言語活動ツールを作ったり、それを通して伝えた相手から反応が返ってきたりすることで、意欲の高まりや達成感を感じている児童がいることが分かる。

(4) 指導上の留意点

- 単元の導入で「へんしんまきもの」を紹介し、身近な人に食材に関する本の内容を分かってもらうために作るという課題をもたせるようにする。また、「食品の『くふう』の紹介」は短い文章で書き、写真や絵などを使って内容を分かりやすく説明することを示し、段落の中心をとらえて書き表すことが大切であることを伝えるようにする。
- 総合的な学習の時間の「大豆博士になろう」で、事前に大豆をきな粉にしたり豆腐作りをしたりする加工の過程を体験させておくことで、教材文の内容を理解する支援になるようにする。
- 「初め」「中」「終わり」を確実に見付けさせるために、最初に、事例が書かれている「中」の部分を見付け、その後で「初め」の部分を確認する。また、「終わり」を見付けるために、キーワードである「このように」という言葉に着目させるようにする。
- 文の内容を読むことが難しい児童には、キーワードを見付けて読んでいくように伝え、「食品の『くふう』の紹介」に必要な文を探すことができるようにする。食品に関する記述部分には赤色のサイドラインを引き、赤い付箋に書く等、色を見ただけで関連が分かるようにしたりして、スムーズに学習できるように手立てを行うようにする。
- 本時では、教師の例示で「伝えたいこと」と事例の順序には関係（筆者の工夫）があることに気付かせ、その後、教材文を読むことで、筆者の「伝えたいこと」と事例の順序の関係を理解させるようにする。
- 児童がいつでも本を読めるように関連図書のコーナーを設ける。多くの関連図書から児童が自分に必要な本を選びやすくするために、マスキングテープに食材名を書いて、関連図書の背表紙に貼っておくようにする。また、必要な情報が載っているページに自分の番号（名前）を書いた付箋を貼り、コピーしたものに書き込みができるようにしたり、意味が分からない言葉は辞典で調べて記入したりして、ツール作りに必要な情報や語彙を増やすようにする。

4 単元の目標と評価規準

単元の目標		◎目的に応じて、中心になる語や文をとらえて段落相互の関係を考えながら、文章を読むことができる。【読むこと（１）イ】 ○目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることができる。【読むこと（１）エ】	
単元を通して位置付ける言語活動		「自分のおすすめの食材を『へんしんまきもの』に書いて紹介する言語活動」を通した指導	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
	①身近な食べ物について興味をもち、その食べ物に関連のある本を進んで読んだり調べたりしようとしている。 ②読み手にわかりやすく伝えるための工夫について自分なりに工夫しようとしている。	①必要な情報を見付けるなど、目的に応じて中心になる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら文を読んでいる。（１）イ ②目的や必要に応じて、文章などを引用したり要約したりしながら読んでいる。（１）エ ③食品の「へんしんまきもの」を作るためにいろいろな本や文章を選んで読んでいる。（１）カ	①文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典などを使って調べている。

5 単元の指導と評価計画（１０時間取り扱い・本時７時間目）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価基準及び評価方法
1	1	○総合的な学習の時間で学んでいる大豆のことを思い出し、食品の変化について興味を高める。 ○教師が提示した「へんしんまきもの」のモデルを見て、学習の見通しをもつ。	・「へんしんまきもの」を作ることを伝え、今後の学習の見通しをもたせるようにする。 ・前回取り組んだ「○○事典」づくりを振り返りながら学習の流れがイメージできるようにする。	【関①】 （発言・観察） 食品について説明されている文章やツールを作っていく活動に興味をもっている。
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">パズル方式</div> ○「へんしんまきもの」を作って伝えるために、情報を収集する方法を知る。 ・本の題名・種類・目次・索引・見出し等を手がかりに情報を見つけること ・分からない言葉は、国語辞典などで調べること	関連図書 ・たくさんの本を集めて、児童の活動がスムーズになるようにする。 ・関連図書の背表紙にマスキングテープで食材名を書き、児童が自分のツールに必要な情報を探しやすいようにする。 ・分からない言葉は国語辞典で調べることが必要であることを周知する。	【読③】 （発言・観察・付箋） 情報を収集するために色々な本を選んで読んでいる。

2	3	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、「すがたをかえる大豆」を読んで、文章全体がどんな組み立てになっているか考える。		関	・食材が大豆であることを確認し、どんな食品が紹介されているか全文シートで確認しながら進める。	【読む①】 (発言・全文シート)「初め」「中」「終わり」の三つに分け、それぞれの大きな内容をとらえている。
	4・5	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、「すがたをかえる大豆」を読んで出てくる食品を出し合い、工夫ごとにまとめる。	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、「自分の調べたい食品」の情報を収集し、工夫ごとにまとめる。		・付箋に貼られた写真を基に、工夫ごとに食品を整理するようにする。 ・変身する食品と料理を混同しないように声かけをする。	【読む②】 (ノート、資料のコピー) 変身名人の食品について整理しながら読んでいく。
	6	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、大豆をおいしく食べるための工夫を、分かりやすく伝えるための説明の工夫について考える。	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、自分のツールに生かしたい工夫を考える。	連	・写真の活用、一つの段落に一つの工夫を書くこと、題のもつ役割などについて押さえ、大体的内容が分かる。 ・3年生に分かりやすい食材を取り上げていることや事例の順番など、分かりやすく伝えるための工夫に気付くように、全文掲示や全文シートを使って、工夫をとらえられるようにする。	【読む①】 (発言・ツール) 筆者の考えを効果的に伝えるための説明の工夫に気付く、自分のツールに生かしている。
3	7(本時)	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、筆者が紹介している順番の工夫について考える。	○「へんしんまきもの」 を作って伝えるために、自分のツールの順番を工夫する。	図	・筆者が紹介している順番が、加工が単純なものから加工が複雑なものへと展開していることに気付くように、接続語や加工にかかる時間などに着目させるようにする。	【読む①】 (発表・ツール) 筆者の考えを効果的に伝えるための事例の並び方についての工夫を考えながら読み、自分のツールの順番を考えていく。
	8・9	○「へんしんまきもの ○○のまき」を完成させる。		書	・前時までに学んだことを思い出し、ツールづくりを生かせるようにする。	【言①】 (ツール) 分からない言葉は国語辞典などを使って調べていく。
4	10	○完成した「へんしんまきもの」を読み合い、何を伝えたくてどんな工夫をしているかに着目して、感想を述べ合う。 ○学習を振り返って、どんな力が付いたかをノートにまとめる。			・感想交流では、作り手が意図した分かりやすく伝えるための工夫を知ったうえで、感想を述べ合うようにする。	【関②】 (ツール・感想交流) 読み手に分かりやすく伝えるための工夫について説明していく。

6 本時の学習

(1) 目標 自分の「へんしんまきもの」の事例の順番を考えるために、「すがたをかえる大豆」に出てくる事例が紹介されている順番の工夫を理解することができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動【学習形態】	○主な発問や指示 ・指導上の留意点 ◆評価	備 考
つかむ 5分	1 前時までの学習を振り返る。 【一斉】	○大豆のことを伝えるための筆者の工夫にはどんなものがありましたか。	全文掲示 全文シート 学習計画表
分かる 20分	2 本時のめあてを確認する。 【一斉】		
	筆者がしょうかいしているじゅん番のひみつについて考えて、自分のまきものにいかそう。		
	3 筆者が紹介している順番のひみつについて考える。 (1) 教師が示した順番は、どんな順番なのか考える。 【一斉】	○先生が紹介する順番は、何の順番だと思いますか。 ・教師の示した順番は、好きなものを知らせる順番であることを確認する。	モデル
	(2) 「すがたをかえる大豆」に出てくる事例の順番のひみつについて考える。 【小グループ ↔ 一斉】	○「すがたをかえる大豆」で紹介されている順番には、どんなひみつがあるのかな。 ・筆者の伝えたいことは何なのかを投げかけ、伝えたいことが伝わる順番だということに気付かせる。 ・見た目の分かりやすさの順番だと児童が考えた場合には、「納豆」の場所を示し、あらためて考えるきっかけにする。	全文掲示 全文シート 「学習のガイド」
深める 15分	(3) 筆者が紹介している順番のひみつについてまとめる。 【小グループ ↔ 一斉】	徹底指導（ポイント） ◎事例の順番には、筆者の工夫があることをまとめる。 ・伝えたいことによって紹介する順番が変わることを確かめる。	
	4 自分のまきものについて考える。 (1) 自分のまきもので伝える順番を考える。 【個人】	能動型学習（ポイント） ◎筆者や教師が紹介した順番の他にも伝えたいことに合う順番でもいいことを押さえる。 ・「わたしは、…の順番にしました。わけは、…」のように文型を提示し書きやすいようにする。	「へんしんまきもの」 (ツール)
	(2) 自分で考えたまきものの順番を紹介し合う。 【小グループ ↔ 一斉】		
	◆読む能力①(発表・ツール) B: 筆者の考えを効果的に伝えるための事例の並び方についての工夫を考えながら読み、ツールの順番を考えている。 (Bに達しない児童への手立て) 各段落の最初の部分(つなぎ言葉)に気を付けると分かりやすいことを伝える。		
振り返る 5分	5 本時の学習を振り返る。 【一斉】	・次時は「へんしんまきもの」を完成させることを知らせ、本時を振り返る。	